

25年 1月 11日 提出

信行寺 / 「絆基金」 ボランティア助成 報告書

団体名 ((しまらいんや))

(文) 学部 (2) 年 氏名 ()

1. 活動を通して得たことを記入して下さい。

自分達がこれからの地域・社会を支えていく世代であるからこそ、今の社会や社会資源、制度の何が不足していて何をしたいか、やらなければ現場をやることで考え、ヒントを得た。また次の災害が起きた時、どのように被災をしていくか、現実の「コミュニティ」をやる中で何が出来るか、というテーマを得た。

2. 今後、被災地支援のためにすべきこと、求められていることを記入して下さい。

継続的に現地に「行きつづけること。その中で各人、各チームが何かを得、それを他者とわけあうこと。公の場にせよ私的の場にもせよ、現地の人々の言葉を伝えること。その教訓を無駄にしないために周りの人を守る手段などを考えること。とごと考えます。

3. 被災地支援のアイデア (企画、具体的な活動内容など) を記入して下さい。

特にありませんが、これからの活動の中で見出していきたいことと思います。

4. 浅野代表へ一言お願いします。

今勤める若者に、ご支援くださるOBの方や信行寺檀家の方々に本当に感謝をしたいと思います。ありがとうございました。この活動が多くの犠牲のもとにあることを忘れず、これからの社会を担っていく者達として多くの学びを得る決意です。これから見守りつづけてくださればと思います。よろしく願い致します。

以上

2013年 / 月 日 提出

信行寺 / 「絆基金」ボランティア助成 報告書

団体名 (ほまら、いや)
(法) 学部 (3) 年 氏 名 ()

1. 活動を通して得たことを記入して下さい。

今回は、ソニー生命保険会社が主催された集会所での年越しそばのイベントの補助を行いました。私は、そば配りのリーダーをやりましたが、メンバーに対して、限られた時間・情報の中で的確な指示を出すことが難しくかったです。また、当日は又愛、強風だったので、おそばを持った子どもや高齢者の方が風に飛ばされよう、必要に応じてご自宅まで付き添いをするなど、事前に「危機」を察知して、それを実際に行動化して、安全なイベント運営につなげていくことを学びました。

2. 今後、被災地支援のためにすべきこと、求められていることを記入して下さい。

私たちの団体は、コミュニティ支援を一番の旗印に掲げて1年間やってきましたので、これからも、^{おいて}面瀬地区に足を運びつづけることが使命だと思います。間もなく2年を迎えようとしている現在、継続して被災地に入るボランティア団体はめっきり少なくなってきました。そういう状況であるだけに、なおさら私たちのような団体が求められていると考えています。

3. 被災地支援のアイデア (企画、具体的な活動内容など) を記入して下さい。

現在、私たちの団体では、お年寄りのお宅 (特に一人暮らしの方) や、私たちとお話したいとおっしゃっている方のお宅を直接伺う、あるいは集会所にお連れして、傾聴を行っています。仮設住宅で住まわれている方は、ある種 極限の状態に住まわれている訳ですから、「お話を聞いてほしい」という方が多くいらっしゃいます。そのような方々が気持ちよく話せるよう、傾聴の手法 (姿勢や相づち) にも気を配っています。

4. 浅野代表へ一言お願いします。

日頃より、私たち後輩のために物心両面にわたってご支援を頂いており、ことに感謝申し上げます。私は昨年11月から、かれこれ10回近くにかたがて^(2011年)面瀬仮設に足を運んでおり、こうして繰り返して行くことが出来るのも、浅野代表をはじめとする篤志家の皆様のお心遣いがあるからこそです。私たち学生は知識も経験もなく、未熟な存在です。しかし、私たちは傾聴を通じて、その方の「人生の一部」に関わらせてもらっています。その責任と役割をしっかりと自覚し、これからはボランティア活動に励んでいく所存でございます。以上これからも、どうかよろしくお願い致します。

2013 年 7 月 16 日 提出

信行寺 / 「絆基金」ボランティア助成 報告書

団体名 (はまさん)
(経済) 学部 (2) 年 氏名 ()

1. 活動を通して得たことを記入して下さい。

活動する際には、日本ホスピス在宅研究会の方と行動をし、仮設住宅へ訪問する際には看護の視点から生活うかがいました。看護の視点では特に「気づき」が重んじられ、日常のささいなことから住民の方の心境や体調の変化に「気づく」ことが必要です。この「気づき」は普段、友人と話るときや社会に出て相手と話するときにも欠かせない力であると、思うので、被災地にいるときだけでなく日常から「気づき」を持ちて人と接し、磨きたいです。

2. 今後、被災地支援のためにすべきこと、求められていることを記入して下さい。

震災後、中長期の段階に入り、仮設住宅から新居へ移る人が多くなります。その際の手続きであったり、二重ローンの問題であったり、専門家の力が求められると思います。引越したあとの隣人との関係づくりも必要である一方、依然 仮設所で暮らされる方もいらっしゃるのでは、取り残されたように感じる方への配慮も必要だと感じます。

3. 被災地支援のアイデア (企画、具体的な活動内容など) を記入して下さい。

住民の方のニーズとしてやはり専門的知識をもった方への相談などが多いと思われ、それを私達学生がやるのは難しいので現実的なものとして集会所での催し物が挙げられます。今回の活動の中でも、将棋が好きな方がやる相手がいない、ということで私が木時をさせていただく場面がありました。そこで将棋大会を開くことで、学生がいなくても住民同士で将棋ができるような環境づくりにつながれば良いと思います。

4. 浅野代表へ一言お願いします。

浅野様、今回も我々の活動へのご理解とともにご支援していただき誠にありがとうございます。ご支援をいただいたことで我々の生活が充足し、潤滑に活動をする事ができ、結果的に住民の方々への支援にもつながったかと思われ、ます。

支援してよかった、そう思っていたけよう、微力ながらも復興の力添えになるよう我々は今後も活動していきたいです。

以上

2013年1月8日提出

信行寺 / 「絆基金」 ボランティア助成 報告書

団体名 (はちいんや)

(法) 学部 (2) 年 氏名 ()

1. 活動を通して得たことを記入して下さい。

昨年様は活動を通じて東北に関わりつづけてきたが、震災から7年9月、今の気仙沼
前線と自分の目で見て、知るべきだった。不自由な生活の中、その中で住民の方々は工夫して
生活している。その自発的な言動を少しでも後押しし、協力できる点があればいい。あ
ボランティアの立場としても寄り添っていくことの大切さを知った。また、笑顔で住民の方々に
声かけするの大切さを知った。自分が完全に心を開いて関わり、いかに言葉を行動に
表すか、その想いは通じ、またそれはボランティア同士においても言えることであり、
チームとして動く以上、自分のやるべきことを主体的に探し、行動する際、情報共有することの大切さを
知った。これは現地だけでなく自分の生活にも活かしていくことができると確信している。

2. 今後、被災地支援のためにすべきこと、求められていることを記入して下さい。

今回感じているのは現地から求められているものは見に見えづらなものに変わってきているという
ことである。分かりやすく言い換えるならば物資を供給することではなく、私たちが必要であると感じているのは
子どもたちが安全にのびのびと遊べる場所であり、心の充実や癒していることである。これは
集会所で子どもたちが遊んでいる中で、集会所の中では元気に走り回ったりするのはあまりに狭いと
感じにからず、しかし、彼らには遊ぶスペースだけを求めて来てはほしい。そこに「人」と
会いに来てほしいと感じる。ボランティアとして参加する側も、それを自覚の上で、何か
思いに至るまで行動するべきだと大切である。また、自分ができることとして「音楽」という側面でも
東北に関わればよいと考えている。心の充実、癒しという側面でも意義のある活動ができる。

3. 被災地支援のアイデア (企画、具体的な活動内容など) を記入して下さい。 模索中である。

ボランティアは「継続すること」が大切であると思う。そのために、はちいんやをはじめ、
今、中央大学の中で行われている活動がこれら先も継続的に続いて、ここに大きな
意味があるのではないだろうか。その中で、現地との「濃い関係」をつくっていくこと。
対等な立場で相手の立場に立ち、物事を考え、笑顔でいかに話を進めたいか。
また、具体的にはアイデアとして音楽で何か企画ではいかに考える。例えばこちらで
小規模のオーケストラを結成し、現地の吹奏楽や弦楽とコラボレーションする等。
また、蓄積はかかれば接するべきと思われる楽器を持って、体験会とするのもどうだろうか。

4. 浅野代表へ一言お願いします。 11月は14年間、時に経験がなくても治めたいと思う。

今回、浅野様からの支援があって、私たちが学生は年末年始気仙沼での
ボランティア活動を実現することができたと感じております。心温かいご支援に
心から感謝申し上げます。活動は自分のできる範囲で続けていくこと。また、
少しでも現地の方の力になること、そして現地で感じたこと、知ったことを発信し、
東北についての関心を維持していくこと。そして経験を、生きた知恵として
日々の生活に活かしていくこと、ボランティアを経験して、私たちがの使命であると
感じています。この考えを基に一日一日大切に学生生活を送り 以上
たいと思います。本当に、ありがとうございました。

2013年 1月 7日 提出

信行寺 / 「絆基金」ボランティア助成 報告書

団体名 (ほまろいんせ))
(法) 学部 (4) 年 氏名 ()

1. 活動を通して得たことを記入して下さい。

今回で 5 回目の面瀬中仮設での活動となりましたが、その度に新たな学びがあると感じています。その中でも、新しい年を向え、増え高齢化が進む中、高齢者の方が新たな健康面での問題を抱え、しかし生活面での改善が一向に計り出せない。復興の遅れが仮設で暮らす住民の方に焦り、不安、不満をつのうせていることが顕著になっていいると感じました。

2. 今後、被災地支援のためにすべきこと、求められていることを記入して下さい。

我々のような学生ボランティアが継続して支援を続け、ただでなく、東京に戻って何をすべきか、支援の輪を広げるにはどうすれば良いのかと、もっと積極的に考えねばならないと感じた。また、これから社会に出ていく卒業予定者が被災地の現実を知ること、社会、自分の役割を再び見つめ直す時間が作れるのを感じている。

3. 被災地支援のアイデア (企画、具体的な活動内容など) を記入して下さい。

被災地において、各サークルや体連、文化連盟等が活動を生かした支援 (スポーツ教室、吹奏楽、オーケストラ等の演奏)。また OB 等に呼びかけ、法律相談等、中央大学の特色、強みを生かした支援の可能性はありと考える。また、本校において被災体験を語り、聞く場を設けることができればいいかと思った。

4. 浅野代表へ一言お願いします。

今回も浅野様の御支援により、我々学生の経済的負担が少なく活動ができましたことを心より御礼申し上げます。

何と変わって行かない被災地の現場を肌で感じることや、被災者の方の声に耳を傾けるという正に今しかできない、生きた学びを得ることができました。本当にありがとうございました。 以上

2013 年 1 月 10 日 提出

信行寺 / 「絆基金」ボランティア助成 報告書

団体名 (被災地支援学生団体「F」ほうりんせ)

(法) 学部 (2) 年 氏 名 ()

1. 活動を通して得たことを記入して下さい。

今回の年末年始の宮城県気仙沼市でのボランティアでは、活動の拠点となった田瀬中学校の仮設住宅で、集会所の運営、物資の配布、イベントの準備等をして頂きました。仮設住宅の住民の方との取組みや、現地で活動する日本赤十字在宅ケア研究会の方との指導を通じて、「住民が主役」ということを考えながら、仮設住宅という空間でのコミュニティ形成のあり方を学びました。高齢、介護、家族関係等一人ひとりが抱えるニーズは多様であり、そのニーズにどう向き、応えるかが重要であると感じました。

2. 今後、被災地支援のためにすべきこと、求められていることを記入して下さい。

災害中長期にあつた今、被災地には継続的なボランティアが求められていると思います。現地に来て、再度強く感じたのは、復興への道のりはまだ長いということでした。今後も長く被災者としての暮らしは、心は孤独感、閉塞感をもたらすものがあり、彼らに生きることを教える、継続的に被災地に足を運び、「忘れられたい」と感じてもらわないことを思います。また、被災された方からコミュニティづくり等を含め、自立した生活を送ってほしいよう支援していくのも、今後必要だと感じました。

3. 被災地支援のアイデア (企画、具体的な活動内容など) を記入して下さい。

私たちが学生から進んで被災地支援をしましては、集会所のようない住民の方が多く集まるような場所では、何かイベントを開催するということもあげられます。子どもたちも、被災地は圧倒的に遊びの場が少ないと思うので、思いっきり体を動かして遊ぶ場を提供することも必要だと感じます。

4. 浅野代表へ一言お願いします。

二度は、交通費等助成頂き、本当にありがとうございました。ボランティアとして、このように多くの方の支援や費用頂戴とめられ、自分たちは活動できているのだと強く感じました。この感謝を、被災地での活動に精一杯還元できるように、活動を続けたいと思います。

以上

2013年 1月 12日 提出

信行寺／「絆基金」ボランティア助成 報告書

団体名 (しまらいんや)

(法) 学部 (既卒) 年氏名 ()

1. 活動を通して得たことを記入して下さい。

活動に参加したきっかけは、TV、ニュース等のみでは被災地の問題を身近な問題としてとらえられないので、身近な問題としてとらえられるようになりたいということでした。実際に被災した方々に、津波がきたときのこと、避難場所でのこと、などを話して頂きました。話を聞いているうちに、地震、津波は、自分が今住んでいる東京、実家にもいつでもきうる。そのことにより、家が全壊し、流されてしまうことも、十分ありうる。被災地の問題は、非常に、自分に身近な問題であるということを感じることができました。

2. 今後、被災地支援のためにすべきこと、求められていることを記入して下さい。

産業の拠点となるようなものをつくる必要性を感じました。仮設住宅に住んでいる方は、高齢の方が多く、若い人が少ないと感じました。若い人が、仙台に戻りたいと思えるような産業をつくること、従来の働き口をなくした方々がもう一度働けるように、雇用を創出していく必要性を感じました。なぜなら、被災地支援は、住民の方々が共に協力して自立していくことを、あくまで手助けするものであると考えるからです。自立をするには、最低限の生活基盤を整えた上で、働ける環境があることが大切だと感じました。

3. 被災地支援のアイデア (企画、具体的な活動内容など) を記入して下さい。

今後、さらに震災がおきた場合の危機管理のため、地域での避難訓練や、イ本や目、耳等が不自由な方を救助する方法を、地域で話し合い、事前準備しておく必要があると感じました。具体的には、地域のリーダーを養成し、そのリーダーを中心に、震災がおきた場合の行動のイ本、誰が、イ本、目、耳等が不自由な方に声をかけるかを具体的に決めておく必要性があると思います。ボランティアや行政は、危機管理の話し合いを、住民の方々に呼びかけ、手助けする必要があると感じました。

4. 浅野代表へ一言お願いします。

今回、被災地支援に行く機会を与えてくださり、ありがとうございました。様々な経験を通じ、被災地の現状、問題点、さらには自分の欠点等、多くのことを学ぶことができました。現在、公務員を目指して学習中ですが、今回の経験を、行政の仕事においても生かしていきたいと思います。

以上